

令和6年度第4回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和6年度第4回清瀬市社会教育委員の会議が令和6年10月28日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和6年10月28日（月）午前10時から正午まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 会議室2-5（対面開催、オンライン出席者有）

出席委員 （対面参加）
倉持議長、西田委員、玉置委員
（オンライン参加）
松山委員

欠席委員 齊藤副議長、永嶋委員、長沼委員

事務局 生涯学習スポーツ課 古川副参事、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、松山委員はオンラインで参加、西田委員、長沼委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議題

- （1）4ブロック研修会（令和6年10月4日実施）について
 - ・研修会の振り返り（アンケート集計結果等）
 - ・交流大会（令和6年12月14日開催）におけるブロック研修会実施報告について
- （2）不登校支援について
 - ・不登校支援のネットワークづくりについて
 - ・教育委員との懇談会に向けて

3 報告等

- (1) 第56回関東甲信越静社会教育大会神奈川大会（令和7年11月21日開催）における分科会事例発表の公募について

（倉持議長）

それでは令和6年度第4回清瀬市社会教育委員の会議を行う。

今日は休みの委員が多いということで、もし今日決めることがあったら仮で決め、休みの委員に事後了承をいただく形で進めたい。

では4ブロック研修会について、資料の報告を事務局からお願いします。

（事務局）

資料1がアンケート結果となる。全体の参加人数は29人だったが、アンケートの回答数は23件頂戴できた。概ね好評で、大変有意義だった、有意義だったというご感想が大半を占める集計結果となった。駄目だったというお声は一つも無かったので良かったのではないかと思います。その他の感想、意見質問などは皆さんに書いていただいたものをそのまま掲載した。やはり他市の事例などを聞けて良かったというようなご意見や、担い手を見つけていくことの課題などを、皆さん共通認識として持っていることが読み取れるような感想が見受けられた。

資料2は、質疑応答まとめとして、登壇者に事例発表をしていただいた中で、どういった質疑応答が出たかということについて簡単にまとめた。

資料3は、実施報告として、今回のブロック研修会でかかった費用の精算票を、領収書のコピーと共に、会長市の町田市に提出した。原本と残金については、12月14日の交流大会の時に町田市に直接お返しすることになっている。

資料4については、後ほど協議をさせていただくが、12月14日に町田市で交流大会が行われる。こちらの交流大会では、ブロック研修会の実施報告をブロック毎にさせていただくことになっている。今回清瀬市が幹事市になっているため、10分以内で発表することになっている。当日に報告いただく登壇者、また、どのような形で報告を行うのかというところを決めたい。

（倉持議長）

まずは司会の玉置委員から、ブロック研修会の感想と報告をお願いします。

（玉置委員）

内容が盛りだくさんということで、スケジュール的に心配していたところがあったが、

上手く収まったと思う。アンケート結果に有意義であったとあるように、皆さんグループディスカッションをしている時も、たくさん意見を出し合っていた。やはりそこに時間が取れたことがとても良かったと思う。他市の意見も聞け、どこも同じような悩みや課題があるのかというところで、自分自身も参加者も、皆さん参考になったと思う。

(倉持議長)

事務局はいかがだったか。準備が大変だったと思うが。

(事務局)

やはり盛りだくさんの内容だったので、時間通りに進められるか少し心配なところはあったが、登壇者も発表をコンパクトに要点をまとめてくださり、質疑応答の時間も取れた。グループディスカッションの時間も当初の予定よりも長く取れたので、色々と意見交換ができて良かったと思う。また、登壇者にグループに加わっていただいたほか、社会福祉協議会の浅見さんが連れて来られた実習生もその輪に加わって討論をされていたのがとても良く、世代を超えた意見交換ができたというように感じた。

各グループが活発に意見交換をされていて、帰られる時も、とても楽しかったというお声をたくさんいただいたので、やはりグループディスカッションの時間を長く取れたということが大きかったと思う。

(倉持議長)

社会福祉士の実習生の大学生を2人連れて来てくださって、若い世代が直接交流するという機会を結果として設けられた。見ているのではなく、グループに入ってもらったのは良かったと思う。見ているよりも楽しいと思うので、グループディスカッションに教育長にも入ってもらった。

しかし、あれだけの内容をよく2時間半に収めたと思う。登壇者3人の事例発表があり、少しずつ観点は違うが、同じ清瀬の同じエリアの話をしているから、かえって地域の説明を重ねて聞けるというのもとても良かったと思う。清瀬の中ではこの部分というように固まっているが、それはそれで活発な地域ということで聞いた。

グループワークもとても盛り上がり、最後に各市の議長、副議長に報告発表をしていただいたのも良かった。さすが議長、副議長で、皆さんそれぞれ上手くまとめて話をしてくださったので、最後に意見のシェアもできた。

あとはやはり、ジュニアリーダーズクラブのキャンプでの、ワークショップで聞いた子供の声。あれもかなり話題になっていた。とても良かった。子供に直接聞いたのですかといった感じで、学校の先生で委員になられている方々は、子供たちの声というところで、発表用の模造紙を結構見られていた。盛りだくさんだったが、意見交換が活発にできたので、そういうところも良かった。

アンケートの感想を見てもかなり好評だった。強いて言えば、平日ではなく土曜開催の方が良かったという開催日の意見ぐらいか。きっと中身が良かったからこんなふうに言ってくださっているのだと思う。参加者は29人、会場のキャパシティとしては丁度良いぐらいの人数だった。校長先生で委員になられている方も何人か来てくださっていて、皆さんよく調整して来てくださったなと思った。

欲張り企画だったが、皆さんに綿密に準備していただいたおかげで、参加者に良かったと言っていて良かった。我々にとっても、皆さん結構似た関心を持っているということを、改めて感じる事ができた。

また、近隣市でもやはり仕組みが全然違うため、地域学校協働のやり方や、進行状況も違うといったところなども、結構面白かったということがあった。

松山委員、このような感想を聞いていかがか。

(松山委員)

感想を拝見する限り、参加者の満足度も高かったことが伺えた。12月に開催される報告会では、ぜひ登壇された方の話なども聞けると良いと思った。

(倉持議長)

これらを都市社連協交流大会で報告しなくてはいけない。資料を11月29日までに作る。資料は2枚以内、報告は10分以内といった話だったか。

(事務局)

その通り。会場の関係で当日の交流大会に参加できる人数に制限があり、事務局含めて原則6名まで。今のところ西田委員からは、欠席の連絡をいただいている。

(倉持議長)

誰かが発表をしなくてはいけない。以前私が立川市でブロック研修会を担当した時は、事務局が原案を作り、意見を出し合っただけでそれを整え、10分で発表した。10分で話せるように、準備と実際に何をやったかということと、感想などでまとめた。基本的には既にあるものを少し整えたような感じだった。提出する資料は概要だったと記憶している。1枚か2枚という制限があり、プログラムに載せるだけでページの半分か1枚ぐらいの内容になると思う。

開催趣旨と日時を入れ、事例のタイトルと登壇者の名前を入れ、グループワークをしたというようなことを入れた。この間の理事会では、例年研修会の資料として、登壇者が発表したスライドを入れる自治体がありますが今年は入れないでくださいといったことを言っていたかと思う。

登壇者毎に事例報告の概要をまとめ、今回登壇者ではないが、清瀬市のジュニアリー

ダーズクラブのキャンプでの子供たちの意見、社会教育委員からの依頼でワークショップを開催したことなど、少しまとめて入れ、ぜひ司会から話していただきたい。

後半のグループワークは、5つのグループに分かれて意見交換を行った。最後に各グループから話した内容などの意見を発表していただいた。その中に入るようであれば感想を幾つか抜粋して入れる。それで1枚か2枚の内容になるのではないかと思う。それとほとんど同じ内容で写真やもう少し詳しい説明が入ったバージョンをパワーポイントで作る。それを1ヶ月ぐらいで仕上げる。

ブロック研修会の当日にいた社会教育委員の感想も少し入れたい。感想と併せ、私たち社会教育委員側が、やってどうだったかというような感想も一言ずつでも入れると良い。次回の会議が教育委員との懇談会の為、今日色々と段取りを決めなければならない。12月14日の交流大会の出欠も確認する。場所は町田市民フォーラムホールで、最寄り駅は町田駅。時間は午後となり、開始時間は1時半で、終わりが4時過ぎとなる。発表者は12時40分までに来場する。

今日の会議にいらしている皆さんの出欠はいかがか。

(玉置委員)

私は少し厳しい。

(事務局)

齊藤副議長は3時半までならいられるとのことだったので、実施報告の時は大丈夫そうだ。

(松山委員)

私は今のところは空いている。

(倉持議長)

私は一応出席として、議長か副議長か、報告者は齊藤副議長と相談して決める。事務局に資料の原案を作成していただきたい。ブロック研修のまとめに向け、引き続き協力をお願いします。

次に議題の2番目、不登校支援について。教育委員との懇談会に向け、不登校支援のネットワークづくりについて事務局より説明をお願いします。

(事務局)

前回、各中学校でも校内別室をやっているのではないかと指摘があった為、そこを教育指導課にも確認し、一覧表を更新した。ただ、教育指導課でも出せる情報と出せない情報がある為、こちらの内容については部外秘にてお願いします。更新前のものと比べ

て変えたところは、主に校内別室のところだ。形はそれぞれだが、一応全ての中学校に設置されている。

（倉持議長）

だいぶ時間が空いたが、前回、不登校のネットワーク作りをするために、まずは現状を私たち社会教育委員が知らなくてはいけないということを話し、事務局に資料を作っただき、どうするかという話だった。あとは意見交換ができれば良いという話だった。それを年内にやるか、年度内にやるか。それとも、年度内に企画して来年度やるかというような話をした。結局どうすることにしたのだったか。

（事務局）

年度内はやはり厳しい。皆さんの任期が来年の10月末までなので、そこまでに何か形にできればということになった。年度内に企画して、来年度やろうというような話で、予算をどうするかという話をした。教育委員との懇談会の時には、今までの検討内容についての中間報告のような形で話ができればということになったと思う。

（倉持議長）

今日決めることは、年度明けのいつぐらいの時期に、どのようなことをやろうかというアイデア出しか。教育委員にも少し意見をいただき、一度持ち帰り、具体的な企画にしていくというプロセスがいいか。

一覧表を見ると、色々な主体が様々なことをやっていることは分かった。だが、具体的なところは聞かないと分からない。不定期開催として、ウイズアイが結構不登校支援者連絡会というのをやっている。

（玉置委員）

不登校支援をしている団体は、教育委員会からの依頼で活動しているのか。それとも、都や国から委託を受けて活動しているのか、市の事業なのか、完全に自分たちでやっているのか。一般的な不登校の扱いなのか、清瀬市独特のものなのか。

小学校のスクールカウンセラーは教育委員会だが、校内別室は中学校独自なので、校長が変わったら考えが変わるのか、その場合は引き継ぎで引き継がれているのか。学校単体だと、校長が変わると方針ややり方が変わるということをよく聞くので。

（倉持議長）

校内別室は斉藤副議長に少し話を聞いたが、学校と言うよりは、市民やコーディネーターが入っているような例もあった。学校と協力するコミュニティスクールなど。

(玉置委員)

それが無いとアプローチがし辛い。

(倉持議長)

学校外でやっているのはフレンドルーム、教育相談室、相談窓口など、これらは市の事業として設置していて、学校外での支援。

スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーは学校へ派遣しているので、校内での支援。校内別室も学校内での支援。資料に記載されているレモンソーダ以降はNPO団体。最後の「まなぶる」、「きよせ生活相談支援センターいっぽ」は、清瀬市のホームページにも出ているが、個別に相談や支援を行っている自立支援福祉系の窓口のようだ。

そう考えると、教育委員会だけではなく、行政の内部でも色々な部署が関連し合っていて、市民のNPOのようなところも関わっている。それぞれの特徴も知りつつ、市民が参画するとなると、もう少し裾野を広くしたい。市が関わっているものは、やはり専門性が高く、専門職の人が関わっている。校内別室になると少し、市民や保護者が関わったりしている。NPO団体については、それぞれがやっていることの繋がりを作っていくという感じがする。

そうすると、社会教育委員の会議として求められているのは、行政の中のネットワークについては、部署がまたがっているので行政でやっていただくという提起をすれば良いのかも知れないが、やはり交流や情報交換をする必要があるというような観点が1つある。一方で、住民側やボランタリーな支援、学校と一緒にやる共同の支援など、そちらを広げ、認知を高めていく必要がある。何か取り組みや提言ということで言うと、そちらは同じ市民目線で考えやすい。ただ、それぞれの形態やニーズがあると思うので、委員として中身も分かっていないといけない。

去年の教育委員との意見交換の際、力と意欲のある市民はたくさんいるはずだから、もっと子供の支援に携わってくれる市民が増えると良いという観点も少しあった。そのように裾野を広げていく部分が求められていると思う。今支援活動をやっている団体がどのように活動をしているのかや、どのような課題やニーズを感じているのかということも、私たちも知る必要があり、また、広く知ってもらうことも必要なのだと感じる。

ブロック研修会が終わったばかりなので、あのノウハウをそのまま使うという考え方もできる。あのようなやり方が比較的手応えがあったので、実際に活動しているコーディネーターのような方に、事例や経験をお話いただいて、その後にみんなで意見交換をする場を持たせるというやり方が、私たちもイメージが付きやすい。一定の成果も感じるということで、それを今度、清瀬市内の不登校のネットワークづくりに生かしてみるのが良い。

教育委員との懇談会に向けて、何か資料があった方が良いか。

(事務局)

あった方が懇談会を進めやすい。4ブロック研修会でやったことが懇談会とも関係してくるかと思う。例えば、ウイズアイの話もまさにそうだった。4ブロック研修会を受けて、今まで話し合ってきた不登校支援について掛け合わせて形にすれば、教育委員との懇談会の時にはうまく報告できるかと思う。

(倉持議長)

確かにおっしゃる通りだ。ちょうど交流大会向けに資料を作るので、それをまた参考資料として教育委員にもお渡しする。今期の社会教育委員の会議は2つの大きなテーマで、1つはブロック研修会の担当市だったこと。不登校支援をやってきたが、実は横に繋がっているということで、教育長や市外の方からもこのような好評をいただいた。これを生かして来年度の不登校支援について、関心を高め、ネットワークづくりに繋がるようなイベントか、研修会兼交流会のようなことを考えているが、教育委員の皆さんにもご意見を頂戴し、意見交換をするというのが私たちとしてもイメージがし易く、説明もし易い。教育委員の皆さんにもイメージしてもらい易いのではないかと思うが、どうか。ブロック研修会の成果と私たちの経験も踏まえ、不登校支援のネットワークづくりの取っかかりとなるような、研修会兼交流会のようなことを来年4月以降にやってみたらどうかということ、教育委員に投げかけてみる。

(松山委員)

ご提案に異論はなく、そのような形が良いと思う。発表について少し質問があるのでよろしいか。表について質問なのだが、ウイズアイの「笑顔で集える居場所ネットワークの構築」の備考が、事業1から事業7とあるが、これはどう見ればよいのか。

(事務局)

ウイズアイのホームページを基に作成した。申請時の「事業計画書」より抜粋したように、事業1から事業7の内容を、中長期的な計画で立案し、常に内的外的フィードバックを受けながら、評価と振り返りを活かして事業継続を行っているようだ。各事業の詳細については、紙面スペースの関係で割愛した。

(松山委員)

感想としては、相談窓口が色々とあり、学習支援は学校で取り組まれていて、生活困窮者の子供の学習支援などもあり、常時開いているような居場所や、清瀬の不登校支援の半分ぐらいはウイズアイが基本的には一手に引き受けているという印象を受けた。何かもう少し担い手というか、主体が変わっていくことも、またネットワークを作ってい

く上で1つの目的になると良いのではないかと感じた。ここだけというように限定されると、そこに引っかからない子供たちがいるだろうし、持続可能性というところで、もう少し構想が厚くなっていくと良いのだろうということを、この表を見て感じた。

(倉持議長)

確かに、ウイズアイは自分のところでやっている事業もあるし、そういう繋がり作りもやっている。良い団体があることは地域にとっては資源だと思うが、主体のバリエーションや様々な地域にもあるともっと良い。

(松山委員)

ネットワーク作りということの1つだと思うが、目指す方向として、色々な入口を増やしてバックアップできるところを増やしたい。

(倉持議長)

この不登校支援については、教育委員との懇談会に向け簡単な資料を当日までに作り、私たちの議論も少し整理することにさせていただく。資料については、私と齊藤副議長で原案を作り、それをまた皆さんに見ていただきたいと思います。

次に報告等ということで、第56回関東甲信越静社会教育大会神奈川大会における分科会事例発表の公募について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

来年度の話になるが、神奈川大会の分科会で事例発表があれば今月の11月21日までに手を挙げてくださいというお知らせ。清瀬市として何か報告があればというところでの案内となる。分科会は今回横浜が会場だが、色々な会場で開催されるようで、テーマごとに分かれて発表が行われ、参加したい方はそちらに聴講しに行くというようなスタイルになっている。清瀬市として発表することがもし何かあればというところだ。

(倉持議長)

開催場所が今回は横浜で近いので、日帰りできる距離感で比較的行き易い。何か良いアピールができるものがあればということで、この5つの分科会、地域の教育力の再生と社会教育委員の役割、次の世代に繋ぐ持続可能な社会、家庭教育支援、共生社会の実現、地域学校協働活動とある。ただ、これはエントリーをしても、1分科会につき1事例しか選ばれない。神奈川県の実例と他の関東甲信越静の各都道府県から1事例ということだ。今回やったことを生かせそうなものはどれか。

(玉置委員)

第2分科会しかない。

(倉持議長)

次の世代につなぐ持続可能な社会か。これは別紙の主な研究討議の視点見ると、自然体験活動やSDGs、エシカル消費などを書いてあるので少し違うように思う。ただ、次の世代につなぐという観点は一致しているのだが。不登校支援については第5分科会の担い手にあたるのか。地域学校協働活動だけではなく、社会教育委員の役割も含まれているのだが。手を挙げたら令和7年11月21日に横浜に行かなくてはならないが、どうするか。不登校支援のこの話が、来年の今頃にはどれくらい進んでいるか。来年の春から夏にかけて何かできたら、不登校というテーマをもとに、社会教育委員がアプローチして地域の教育力を考えるような企画を始めたとして発表ができる。東京都の代表になるぐらいの中身になるのではないかなと思うが、少し未知数なところがある。実績と言われるとまだ何もない。ブロック研修会で発表したぐらいしか書けないが、どうか。打って出たい人はいるか。

(事務局)

今回は近いので、ぜひ来年行けたら行ってみられるのも良いと思う。

(倉持議長)

本日はお休みが多く過半数にいなかったの確認なのだが、神奈川大会の分科会については、今回は見送るということでよろしいか。

それでは本日のまとめをする。議題はブロック研修会について振り返りを行った。都市社連協の交流大会に向けて、資料とスライドを作ることになった。事務局が原案を作り、皆さんメールでやりとりをしていただき、11月末には提出をするとするが良いか。皆さん了承をいただくという形にさせていただいて、皆さんからも少し感想を寄せていただく。

不登校支援については資料を見て、これまでの検討に基づき教育委員との懇談会に向けて、来年度の事業計画をまとめていく。議長、副議長で原案を考え、まとめていくことにした。委員の皆さんに原案についてご意見をいただいて完成させる。そして神奈川大会の分科会での事例報告は見送るということでよろしいか。

3つ了承をいただければ、こちらの議事録には書面で参加していただいたということにする。その他に何か質問等はあるか。

やはり10月は文化スポーツなど、様々なイベントが選挙と重なって大変だったと伺っているが、無事に開催していただいていることだと思う。

次回は12月24日9時半からということで、前半の30分から1時間ぐらいは社会教育委員の会議をやり、後半で教育委員との懇談会をする予定となっている。

以上で令和6年度第4回清瀬市社会教育委員の会議を終了する。